

Title	ドン・ジョン・デ・カストロ
Sub Title	
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1940
Jtitle	史学 Vol.19, No.3 (1940. 12) ,p.140(520)- 140(520)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19401200-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ドン・ジョン・ド・カストロ

自分は最近エデンバラの一書店からサー・ピーター・キッチ譯する所の印度第四の副王ドン・ジョン・ド・カストロ傳（ロンドン刊一六六四年版）を得た。原本はジャキント・フレール・ド・アンドラダの著る *Vida de Dom João de Castro, quarto visor-rei de India* 一六五一年リスボンの出版で、同書再版は一六七一年といへば、英譯本が原本の初版からなされたことは明白である。

カストロは一五四五年九月十日任地ゴアに着し、一五四八年六月六日四十八歳を以て逝去した。在任滿三年に滿たぬが、その間彼はデューの圍を解き、またゴアを防いで武威を示したのみならず、從來の殖民政策の弊風を一洗し、官吏が官金費消や受賄によつて私腹を肥すことを匡正した。尙また彼はカトリック教師の布教が印度在住の葡人間に、限られてゐたのを改め、廣く土人間に信仰を傳播せしめた。カストロの友人聖フランシスコ・ザビエーの盡力が之に與つて力あつたことは言ふまでもない。

カストロの臨終を見送つたはザビエーである。本書第四卷一〇三節に曰く、副王は最後の争に召されたりと知るや、煩はしき俗界の慰撫を避け、危険の航海に最も安全なる航海手聖フランシスコ・ザビエーを伴つて退いた。聖人は彼の病中彼の看護者であり、神と彼との調和者であり、また彼の管理者であつた。彼は新に分配すべき富を持たぬ……彼が亞細亞で得た富は彼の勇敢なる行動で、後人は本書により之を記憶に存し得やう。彼の私室に見出されたは小貨幣三枚と屢々使用したと思はれる苦行用の鞭及び彼が保存した髯の一塊だけであつたと。

マツトスの葡萄牙貴重書誌によると、原本の初版及び英譯は稀品にして貴重すべく、殊に英譯本にはフェーソンの彫刻にかゝるカストロの立派な肖像畫があると説明してゐる。友人ボックサー氏が兩方とも所持して居られるのは羨ましい。不幸にして自分の得た本には肖像畫が無い。然しそれが無ければこそ幸に自分の手に入つたものともいへやう。（幸田成友）（昭和一五、九、二九）